

どうする？自転車通学家庭の経済的不公平感 入学準備助成で就学支援を

H30通学バス国庫補助打ち切りを前に

霞ヶ浦中学校の入学準備の頃になると必ず聞こえる声があります。「スクールバスは無料なのに、自転車通学の家庭は7万円もする自転車を買うしかない、不公平だ」との声です。霞ヶ浦中学校の生徒394人のうち、スクールバス利用者は90人。バス4台の年間経費は約4千万円ですから、1人当たり約40万円の経費がかかれています。

バス経費・年4千万円

霞ヶ浦中学校開校以来、「無料スクールバスを利用できない生徒（6キロ以内）の家庭では自費で高額な自転車を買わなくてはならない」と、保護者に経済的不公平感が広がっていました。私は6月21日に終了した平成29年第二回市議会定例会で、この不公平感の解消に取り組むよう求めました。

つばさ通信

第10号

かすみがうら
市議会議員みやじま謙活動報告

31年度からは有料に？

バスは年間2000日として、1人1日2千円の公費をかけ、送り迎えをしている計算です。対して自転車通学の家庭は、自費で自転車を購入しているの、不公平感を抱くのも無理はありません。

市内全入学生への助成を

霞ヶ浦中学校は、条件的には千代田中学校と変わりなく、スクールバスがなくても、多くの生徒は自転車通学が可能です。最も遠い地域だけマイクロバスを使う措置も考えられます。そこで私は、「バス運行に毎年4千万円をかけるなら、その経費を市内の全入学生の入学助成に向けたほうが良いのでは？」と提言しました。

千代田中学校区小学校統合は
早くても平成34年以降
霞ヶ浦中地区から遅れること6年

遅れている千代田中地区の4小学校の統合問題に動きがありました。

これまで統合場所を志筑小学校としていた『小中学校適正規模化実施計画』を改定し、統合場所を千代田中学校敷地内とし、時期を平成34年予定としたのです。

霞ヶ浦中地区の小中学校統合から遅れること6年。なぜこんな事態になったのでしょうか。

問題の発端は、志筑小学校の移転新築にさかのぼります。地域住民の多くは旧志筑小の場所での建て替えを希望したものの、なぜかその意向が無視され、今の場所へ強硬移転されたとされています。

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！

『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。翼に偏りがあっては飛べません。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、明るい未来が切り拓かれていくと確信するのです。



さくら保育所、今年度で閉所へ スムーズな転所に向け万全の体制を

混乱した閉所問題

今回の定例会で、さくら保育所の平成29年度末での閉所に伴い『かすみがうら市保育所設置条例』の改正議案が提出され、賛成多数で可決されました。

これでさくら保育所の今年度閉所が確定し、入所児童は他の保育所や幼稚園へ転所することになります。

さくら保育所は、その閉所時期をめぐって混乱が続きまし。何度も保護者との会合を持ちながら、合意形成に時間がかかったことは、丁寧な説明が不足

していたこと、転所による不安感の払拭に力が及ばなかったことなど、行政の努力不足に起因した面もあったのだと思います。

昨年5月には保護者から『市立さくら保育所の維持・継続を求める請願書』が議会に提出され、市議会ではこれを趣旨採択するとともに、『市立さくら保育所に関する決議』を決議し、保育の必要な子どもが保育を受けられることを保障するとともに、スムーズな転所に最大限の配慮をすることを執行部に求めたのでした。

児童・保護者に寄り添って

現在、市ではさくら保育所閉所に伴う新たな入所施設を確保するため、周辺の民間事業者に対し増員の申し入れを行い、1人残らず転所ができるよう段取りを進めているところで、各事業者も受け入れの準備に入りました。待機児童を出さない、転所によるストレスを最小限に抑える、転後のフォローアップ体制を整えるなど、担当部局は児童・保護者に寄り添いながら万全の体制を整えていただきたいと思っています。

土浦市との合併に本腰を

昨年11月のつくば市長選で当選した五十嵐立青市長が、今年3月に土浦市の中川市長のもとを訪れ、約3年にわたって続けられてきた両市の合併勉強会の解消を申し入れ、中川市長もこれを了承しました。これによって、つくば市と土浦市を中心とした合併は当面は遠のいたわけで、とても残念に思います。

この勉強会にオブザーバーで参加してきたかすみがうら市としては、今回の勉強会解消を受け、今後の対応が肝心となります。

私は以前から、合併を視野に土浦市との連携強化を図るべきと提言してきましたが、積極的な姿勢が見られません。

今年5月、かすみがうら市議会と土浦市議会の議員交流会が開催され、両市合わせて35人の議員が集い、活発な意見交換が行われました。

私を含め多くの議員からは、両市は経済的にも人的にも不可分であり、より強い絆を模索すべき」との意見が聞かれました。

人口減少対策や経済活性化のためには、土浦市と共同の街づくりが不可欠です。今すぐアクションを起こしていくべきだと思います。

明日への思い

先日、子ども食堂を運営する方のお話を聞きました。今の貧困家庭の子どもは、リサイクルで安く服が買えるため、見た目は普通の家庭の子どもと変わらないそうです。しかし生活はすさんでいるケースが多い。破れた下着が恥ずかしくて修学旅行に行けない、教材を買ってもらえず不登校、親の離婚で家族がバラバラ、ひとり親は深夜労働、そんな状況下で心も荒れ、社会から孤立していく。罪のない子どもが、貧困の渦の中で、生きる気力さえ奪われている現状があるのです。

見えない貧困は人知れず広がっています。多くの人の小さな行動の積み重ね以外、子どもたちを救う手立てはありません。

TOPICS

市内第1号！フードバンクのきずなbox

フードバンクは、食品関連企業や一般家庭から、消費期限内の食料を寄付していただき、それを福祉施設や食に困っている人たちに提供する活動を行っている団体です。茨城では牛久市に本部を持つNPO法人フードバンク茨城が活動して

おり、私も会員になっています。

家庭から持ち寄っていただく食料を入れる箱を「きずなBOX」といいますが、今回かすみがうら市内の第1号として、6月20日から、千代田シヨップイングモール内の農協そばさん店頭に設置されました。農協そばさんは矢口龍人議員の経営で、フードバンクの理念に賛同し、きず

なBOXの設置を了承していただきました。矢口先輩、ありがとうございます！

皆さん、このきずなBOXに、2か月以上の消費期限があつて常温保存できる乾麺やインスタント麺、缶詰、レトルト食品などを入れてください。皆さんの善意は、フードバンクを通じて必要な方へ必ず届けます。よろしくお願いします！



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/